

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
105-82	中 学 校	国 語	国 語	3
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2 東 書	国 語 002-92	新 編 新 しい 国 語 3		

1. 編修の基本方針

「言葉の力」で未来をひらく。



国語で身につけたい力とは何か。情報を集め、分析し、それをもとに論理的に考えぬく力。

身の回りの物事や人の心を細やかに感じ取り、豊かに想像を広げる力。

周囲の声に耳を傾け、自分の考えや思いを相手にしっかり伝える力。

子供たちがそうした「言葉の力」を着実に身につけ、

「言葉の力」によって未来を切りひらいてゆくことを願って、「新編 新しい国語」を編修しました。

1 「言葉の力」を、生きる力に。

—国語の学習で、どんな力を、どうやって身につけるのか。その問いに答える教科書です。

「言葉の力」—言葉を使って論理的に思考し、豊かに想像し、伝え合う力—は、子供たちのこれからの人生や社会生活を支える、生きる力です。では、「言葉の力」の具体とは？ それを身につける手立てとは？ この教科書には、「言葉の力」が確かに身につく仕組みがあります。



2 国語の授業から広がる未来。

—言葉を駆使して、自分の、社会の、未来をひらく。

国語の授業のその先を見据えた教科書です。

読んだり、書いたり、話したり聞いたりできるようになることだけが、国語の学習のゴールではありません。予測困難な時代を生きる子供たちが、言葉を駆使して自己と向き合い、社会の課題に目を向け、未来を切りひらくこと。それが、国語の学習の、この教科書の、目指すゴールです。

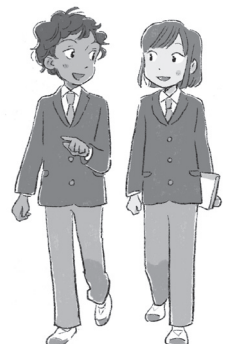


3 一人一人の「学びたい」に寄り添う。

—分かるようになりたい、できるようになりたい、知りたい、もっと学びたい。

一人一人の「たい」にしっかり応える教科書です。

学習において最も大切なのは、学ぶ意欲。子供たちの興味に、つまずきに、もっと学びたい気持ちに、教科書とデジタルコンテンツで応えます。必要に応じて、進度に応じて活用できるデジタルコンテンツが、個別最適な学びを支えます。



1

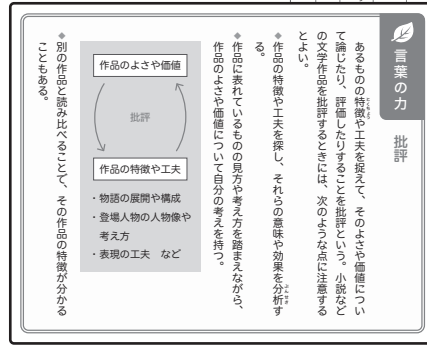
「言葉の力」を、生きる力に。

—国語の学習で、どんな力を、どうやって身につけるのか。その問いに答える教科書です。

① 国語の学習で育む論理的思考力、感性・想像力、伝え合う力。そのポイントが、具体的かつ明確に分かります。

- 国語の学習で身につけたい汎用的な言語能力のポイントを、各教材に設けた「言葉の力」の囲みに示しました。
- 3年間で身につける「言葉の力」が一覧できます。3年間の学習を見通したり振り返ったりすることができます。

▼ p.34-「形」の「言葉の力」



学年	領域	単元	「言葉の力」
1年	国語	1-1	「言葉の力」1-1-1
		1-2	「言葉の力」1-2-1
		1-3	「言葉の力」1-3-1
2年	国語	2-1	「言葉の力」2-1-1
		2-2	「言葉の力」2-2-1
		2-3	「言葉の力」2-3-1
3年	国語	3-1	「言葉の力」3-1-1
		3-2	「言葉の力」3-2-1
		3-3	「言葉の力」3-3-1

▲巻末「言葉の力」一覧

② 生徒の好奇心に応えつつ、確かな学力がつく教材を厳選しました。協働的な学びも重視しています。

- 読み比べ、図表の読解、自分の意見の形成。論理的思考力の育成を重視しました。
- 思春期の感性に響く作品を取りそえました。生徒の自己形成に寄与します。
- 協働的な学びの場を数多く設けました。他者との関わりを通して、多様なものの見方・考え方を知り、自分の考えをじっくり深めることができます。

受け取る「利他」

中島岳志

「利己」と「利他」の対比を論じた評論文の抜粋。自分の利益と他人の利益の関係を考察している。

▼ p.106-「受け取る『利他』」(中島岳志)
「利他」とは何かを論じた評論文。「利己」と「利他」(児玉聡)も併せて読んで、「利他」について自分の考えを持つ。

「環境」の新聞

環境問題の一つである生物の絶滅に関する論説文を学習した後、グループで環境に関する新聞を編集する。

百科事典少女

小川洋子

百科事典が好きだったRちゃん。百科事典を写し続ける紳士おじさん。本への思い、人への思いが心にしみ入る小説。

③ これからの時代に欠かせない情報活用能力の育成にも力を入れています。

- 随所に、情報の収集や整理、編集、表現・発信の仕方を学べる教材を用意しています。

▼ p.62-「情報の信頼性の確かめ方」

情報の信頼性の確かめ方

インターネット上の情報を信頼する前に、発信者の信頼性や情報の正確性を確かめる方法を学ぶ教材。

いつものように新聞が届いた——メディアと東日本大震災

今野俊宏

東日本大震災発生後に新聞記者がとった行動や、防災への思いを知り、情報やメディアの意義や、情報との関わり方について考えを深める。

▲ p.188-「いつものように新聞が届いた——メディアと東日本大震災」(今野俊宏)
東日本大震災発生後に新聞記者がとった行動や、防災への思いを知り、情報やメディアの意義や、情報との関わり方について考えを深める。



2 国語の授業から広がる未来。

—言葉を駆使して、自分の、社会の、未来をひらく。
国語の授業のその先を見据えた教科書です。

① 国語の学習のゴールは、言葉を駆使して自分や社会の課題に向き合えるようになること。この教科書には、その実現のための仕組みがあります。

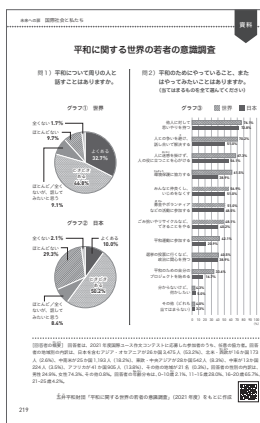
• この教科書では、「未来を考えるための9つのテーマ」を設定しています。各教材に示されたテーマを通して、自分や社会の課題を認識することができます。

• 各学年末に、未来を考えるための教材「未来への扉」を設けました。これまでに身につけた「言葉の力」を使って、テーマについて考えを深めます。1年間の総まとめの教材として活用することができます。

▶ p.214~未来への扉「国際社会と私たち」
宇宙への興味をきっかけにウクライナに留学した経験を持つ若いライターが、平和への思いをつづった文章と、「平和に関する世界の若者の意識調査」を読んで、平和な国際社会の実現のために何ができるかを考える。



▲ p.9~「未来への扉」



好きな地平線を探して
宇宙からウクライナへ
北川 真由美



3 一人一人の「学びたい」に寄り添う。

—分かるようになりたい、できるようになりたい、知りたい、もっと学びたい。
一人一人の「たい」にしっかり応える教科書です。

① 教科書だけが「教科書」ではありません。豊富なデジタルコンテンツで個別最適な学びをサポートします。

• 学習への興味・関心を高めるために、ちょっとしたつまづきを解消するために、理解したことを定着させるために、一歩先の学習へと進むために。3年用に130あるデジタルコンテンツが生徒の「学びたい」気持ちに応えます。

• まるで資料集。学習に役立つ参考資料をデジタルコンテンツで取りそろえました。

デジタルコンテンツ一覧

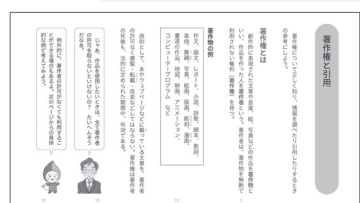
番号	タイトル	形式	利用可能
1	情報教育サイト	Web	○
2	未来への扉	PDF	○
3	未来への扉	PDF	○
4	未来への扉	PDF	○
5	未来への扉	PDF	○
6	未来への扉	PDF	○
7	未来への扉	PDF	○
8	未来への扉	PDF	○
9	未来への扉	PDF	○
10	未来への扉	PDF	○
11	未来への扉	PDF	○
12	未来への扉	PDF	○
13	未来への扉	PDF	○
14	未来への扉	PDF	○
15	未来への扉	PDF	○
16	未来への扉	PDF	○
17	未来への扉	PDF	○
18	未来への扉	PDF	○
19	未来への扉	PDF	○
20	未来への扉	PDF	○
21	未来への扉	PDF	○
22	未来への扉	PDF	○
23	未来への扉	PDF	○
24	未来への扉	PDF	○
25	未来への扉	PDF	○
26	未来への扉	PDF	○
27	未来への扉	PDF	○
28	未来への扉	PDF	○
29	未来への扉	PDF	○
30	未来への扉	PDF	○
31	未来への扉	PDF	○
32	未来への扉	PDF	○
33	未来への扉	PDF	○
34	未来への扉	PDF	○
35	未来への扉	PDF	○
36	未来への扉	PDF	○
37	未来への扉	PDF	○
38	未来への扉	PDF	○
39	未来への扉	PDF	○
40	未来への扉	PDF	○
41	未来への扉	PDF	○
42	未来への扉	PDF	○
43	未来への扉	PDF	○
44	未来への扉	PDF	○
45	未来への扉	PDF	○
46	未来への扉	PDF	○
47	未来への扉	PDF	○
48	未来への扉	PDF	○
49	未来への扉	PDF	○
50	未来への扉	PDF	○
51	未来への扉	PDF	○
52	未来への扉	PDF	○
53	未来への扉	PDF	○
54	未来への扉	PDF	○
55	未来への扉	PDF	○
56	未来への扉	PDF	○
57	未来への扉	PDF	○
58	未来への扉	PDF	○
59	未来への扉	PDF	○
60	未来への扉	PDF	○
61	未来への扉	PDF	○
62	未来への扉	PDF	○
63	未来への扉	PDF	○
64	未来への扉	PDF	○
65	未来への扉	PDF	○
66	未来への扉	PDF	○
67	未来への扉	PDF	○
68	未来への扉	PDF	○
69	未来への扉	PDF	○
70	未来への扉	PDF	○
71	未来への扉	PDF	○
72	未来への扉	PDF	○
73	未来への扉	PDF	○
74	未来への扉	PDF	○
75	未来への扉	PDF	○
76	未来への扉	PDF	○
77	未来への扉	PDF	○
78	未来への扉	PDF	○
79	未来への扉	PDF	○
80	未来への扉	PDF	○
81	未来への扉	PDF	○
82	未来への扉	PDF	○
83	未来への扉	PDF	○
84	未来への扉	PDF	○
85	未来への扉	PDF	○
86	未来への扉	PDF	○
87	未来への扉	PDF	○
88	未来への扉	PDF	○
89	未来への扉	PDF	○
90	未来への扉	PDF	○
91	未来への扉	PDF	○
92	未来への扉	PDF	○
93	未来への扉	PDF	○
94	未来への扉	PDF	○
95	未来への扉	PDF	○
96	未来への扉	PDF	○
97	未来への扉	PDF	○
98	未来への扉	PDF	○
99	未来への扉	PDF	○
100	未来への扉	PDF	○



▲ 【デジタルコンテンツ】
p.116-「具体例、根拠、反対の関係」の「考えよう」
学習の導入に動画を見て、課題意識を持つ。学習の導入に、または理解の定着に。



▲ 【デジタルコンテンツ】
p.209「文法のまとめ」の「文法ゲーム」
学習の導入に、または理解の定着に。



▲ 【デジタルコンテンツ】
デジタル資料室「著作権と引用」
国語だけでなく他教科の学習や生活の中でも活用できる。

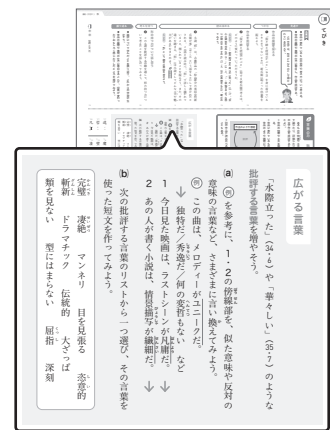
▲ p.313-「デジタルコンテンツ一覧」
各教材の学習に役立つ映像やアニメーションなどの動画、学習ゲーム、解説、資料などを、教科書に示した2次元コードから利用できる。

② 視野を広げ自分を高めるための読書、自分の思いや考えを表現するための語彙の学習も充実しています。

- 読書は、自己を見つめ、世界を広げ、未来を考えるための、最短で最良の道。本に思わず手を伸ばしたくなる、そんな仕掛けをちりばめました。
- 心の機微を、緻密な思考を、表現できるようになってほしい。多様で多彩な言葉に触れられる機会を数多く設けました。



▲ p.178~「本の付き合い方」
6人の著名人の読書に対する思いや考えに触れ、本の付き合い方について考えを深める読書教材。



▲ p.34~「形」の「広がる言葉」

2. 対照表

図書構成・内容	特に意を用いた点や特色 [] 内は、教育基本法 第1章 第2条のうち、特に関連の深いものを示す。	該当箇所
言葉の学習	<ul style="list-style-type: none"> • 「世界への入り口」では、筆者にとっての国語である日本語に対する、筆者の感性や考え方に触れ、言葉への認識を深めます。[第1・5号] 	▶ 16~18ページ
1 言葉を磨く	<ul style="list-style-type: none"> • 俳句の鑑賞と創作を通して、豊かな情操を育みます。[第1・5号] 	▶ 20~28ページ
2 作品を論じる	<ul style="list-style-type: none"> • 「形」を読み、その特徴を捉えて批評することを通して、思考力と表現力を養います。[第1号] • 伝統文化の継承に関する主張を聞いて、伝統や文化を尊重する態度を養います。[第5号] 	▶ 34~41ページ ▶ 42~45ページ
3 効果的に伝える	<ul style="list-style-type: none"> • 生物の絶滅について論じた「絶滅の意味」や、生態系に関する資料を読んで、生態系について認識を深め、環境の保全に寄与する態度を養います。[第4号] • 環境問題についての新聞を編集することを通して、環境問題への認識を深めるとともに、創造性や協働的な態度を養います。[第2・3・4号] 	▶ 50~61ページ ▶ 62~68ページ
4 表現を評価する	<ul style="list-style-type: none"> • 亡くなった娘を思い百科事典を書き直す父親の姿を描いた「百科事典少女」を読むことを通して、家族への情愛を育むとともに、小説の表現に着目して感性を磨きます。[第1・3号] 	▶ 84~101ページ
5 多面的に検討する	<ul style="list-style-type: none"> • 「利他」とは何かを論じた評論文を、別の資料と併せて読んで、他者との関わりについて認識を深めるとともに、主体的に考えを深めようとする姿勢を養います。[第1・2・3号] • 食品ロスや補助犬に関する広告を分析し、批評文を書きます。[第3・4号] 	▶ 106~115ページ ▶ 116~123ページ
6 伝統文化を受け継ぐ	<ul style="list-style-type: none"> • 豊富な資料と併せて古典を学び、伝統文化に親しみます。[第1・5号] • 古人の言葉を、自らの生活や生き方に生かそうとする姿勢を養います。[第5号] 	▶ 130~147ページ ▶ 148~153ページ
7 主題を考える	<ul style="list-style-type: none"> • 社会の中で生きる人々の姿を描いた「故郷」を通して、豊かな情操を育み、人間と社会との関わりについて認識を深めます。[第1・3号] • 面接などの場面に応じて話すことを通して、社会に参画する態度を養います。[第3号] 	▶ 156~171ページ ▶ 172~175ページ
8 思いを馳せる	<ul style="list-style-type: none"> • 「いつものように新聞が届いた——メディアと東日本大震災」を読んで、被災した人々を思い、防災意識を高めるとともに、メディアや情報の意義について考えを深めます。[第1~5号] • 自分を見つめ直して手紙を書く活動を通して、自立する意識を養います。[第2号] • 合意形成を目指して、互いの意見を尊重しながら議論することを学びます。[第3号] 	▶ 188~197ページ ▶ 198~201ページ ▶ 202~208ページ
未来への扉	<ul style="list-style-type: none"> • 1年間の学習の総まとめとして、文章と資料を読み、国際社会と私たちについて考えます。また、これまでの学習を通して考えてきた自分や社会の課題を振り返ります。[第1~5号] 	▶ 214~221ページ
詩	<ul style="list-style-type: none"> • 他者とのつながりをうたう「生命は」、大切な人の死をうたう「レモン哀歌」、原爆の惨禍の中で受け継がれる命をうたう「生ましめんかな」を学びます。[第3・4・5号] • 「日本語のしらべ」として、島崎藤村の「初恋」を学びます。[第5号] 	▶ 巻頭見返し、210~213ページ ▶ 126~128ページ
読書 (読書への招待/読書案内/読書活動)	<ul style="list-style-type: none"> • 「何のために『働く』のか」を読み、職業や社会参画への意識を高めます。[第2・3号] • 「本の付き合い方」では、さまざまな人の本や読書に対する考え方を読み、読書に親しみます。[第1号] • 3年間で422冊のさまざまな種類・テーマの本を紹介し、本を読んで調べたり感想を交換したりする活動を設定しています。[第1~5号] 	▶ 72~77ページ ▶ 178~183ページ ▶ 78~82、184~186ページ等
言葉 (日本語探検/文法の窓・文法解説/漢字道場/広がる言葉)	<ul style="list-style-type: none"> • 日本語の特徴や文法、漢字を学び、日本語への興味・関心を高めます。[第1・5号] • 教科書やデジタルコンテンツを通してさまざまな語彙に触れ、語感を磨き、語彙習得への意欲を高めます。[第1・5号] 	▶ 29~31ページ ほか ▶ 39ページ ほか
資料編	<ul style="list-style-type: none"> • 小説・説明文や古典の解説文、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習に役立つ資料、漢字資料などを掲載し、自主的な学習に役立てられるようにしています。デジタルコンテンツではさらに多くの資料を用意しています。[第1~5号] 	▶ 232ページ~巻末

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

(1) 全ての生徒が使いやすい紙面への配慮

① インクルーシブ教育を目指して

- ・特別支援教育の専門家・校閲を受け、全ての生徒にとって読みやすく使いやすい教科書となるように配慮しています。
- ・国語の授業では、文章の行数で指示を出すことがしばしばあります。生徒が行を数えやすいように、各行の下に数字と点を付しました。
- ・特別支援教育に有効な機能が充実した「学習者用デジタル教科書」の発行を予定しています。

② ユニバーサルデザインへの取り組み

- ・色覚の多様性に配慮し、カラーユニバーサルデザインの観点から、配色およびデザインについて、全ページにわたって専門家による検証を行っています。色のみで違いを表現することは避け、色に加えて模様や記号で識別できるようにするなどの工夫をしました。
- ・脚注欄などの小さめの文字や色文字の振り仮名にはゴシック体を用い、読みやすさに配慮しています。
- ・生徒が情報を捉えやすく学習に集中できるように配慮しています。文字と図版などとの区別や、活動の区切りを明確にし、文字の大きさや書体、罫線や囲みの使い方、色遣いなどを工夫しました。
- ・小学校教科書で使用されている教科書体に筆遣いや字形を合わせた、特別な明朝体を使用しています。

③ 多様性への配慮

- ・文章や挿絵などに登場する人物について、性別や人種、身体的特徴、家庭環境等に偏りがないように配慮しています。

④ 造本上の工夫

- ・生徒の身体的負担を軽減するために、学習の参考や深化・拡充のための資料は、3年用に130ものデジタルコンテンツとして用意するなど、教科書の内容を精選し、ページ数を削減しました。また、本文用紙は、十分な強度を保ちつつ軽量化したものを使用しています。
- ・環境への配慮から、再生紙および植物油インキを使用しています。また、印刷業界団体が定めた環境配慮基準を満たした「グリーンプリンティング認定工場」で印刷・製造を行っています。

(2) 1人1台端末時代の教科書

- ・1人1台端末の実現に伴い、教科書の各教材に示した2次元コードからアクセスして利用できる音声や映像などの資料(デジタルコンテンツ)を豊富に用意しました。授業中に全員で見たり、活動の中で各自が必要に応じて使ったりできるコンテンツのほか、家庭での自学自習に活用できるコンテンツもあります。
- ・生徒が必要に応じて参照できる便利な資料を、デジタルコンテンツの「デジタル資料室」「言葉・漢字・古典の資料」として用意しました。いつでも閲覧することができ、授業中のみならず、生活の中でも活用することができます。
- ・教科書に示した2次元コードから、SDGsや情報活用の特設サイトにアクセスできます。

(3) 今日の課題への取り組み

① 各種の教育課題への取り組み

- ・伝統・文化の継承を重視しています。古典や近代文学・近代詩を手厚く取り上げ、日本の伝統・文化に関する題材も数多く扱っています。
- ・教科書全体を通して「未来を考えるための9つのテーマ」を設定しました。「平和・国際理解」「地球環境」「多様性」「情報社会」「安全・防災」などの現代的諸課題をテーマとして立て、各教材の学習の中で意識できるようにしています。
- ・自己形成やキャリア教育に関する題材を積極的に扱っています。

② 小・中・高の円滑な接続

- ・小学校の学習内容(学習指導要領)を踏まえて中学校の学習目標および「言葉の力」を設定し、小中9年間の系統性を図っています。
- ・小学校6年から中学校1年への学習の移行がスムーズに行えるように、1年の初めの文章教材は、小学校と同じ教科書体で、大きな活字で掲載しました。また、1年前半の教材は難しい内容を避け、小学校高学年の復習となるように配慮しています。
- ・3年では、高校への橋渡しとなるように、社会性のある題材や言語活動を扱ったり、論説文・評論文を掲載したりしています。また、3年資料編で「古典の文法」(発展的な学習)も扱っています。

③ 学力向上への取り組み

- ・全国学力・学習状況調査やPISA調査で求められる学力の育成を意識して、文章や言語活動の題材を選定しました。また、文章と図表から読み取った情報を結び付けてまとめたり、条件に従って根拠を挙げて自分の意見を記述したりする設問を積極的に取り入れました。
- ・「読むこと」の脚注語彙や「広がる言葉」、デジタルコンテンツを中心に、家庭でも学ぶことのできる内容を用意しています。特にデジタルコンテンツには、予習・復習に活用できる資料や練習問題をそろえました。
- ・全ての学習の基盤にもなる読書を重視し、「読書案内」や「読書活動」を充実させるなど、生徒の豊かな読書生活を支援しています。

(4) 学校教育を取り巻く諸課題への取り組み

① 先生がたの働き方改革への貢献

- ・何を学ぶのか(「言葉の力」)、どのように学ぶのか(「話すこと・聞くこと」「書くこと」の「学習の流れ」や、「読むこと」の3段階の「てびぎ」)を明示するとともに、活動の具体例を例示しました。指導計画・評価計画が立てやすく、無理なく指導できます。
- ・多くの教材に、導入や理解の定着に役立つデジタルコンテンツを用意しているため、先生の授業準備の効率化を図れます。
- ・デジタルコンテンツのほか、教師用指導書や教科書周辺教材を通じて、学習指導をさまざまな面から支援します。

② カリキュラム・マネジメント

- ・他教科の学習内容と関連があり、相互に学びを深めることのできる教材に、教科関連マーク(🔗)と教科名を示しました。
- ・レポートや新聞、手紙、スピーチ、プレゼンテーション、さまざまな形式の話し合いなど、他教科の学習に生きる言語活動をそろえています。
- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各教材は、学習内容が相互に緩やかに関連しているものの、独立した教材であるため、学校の実情に応じて、教材の順番を組み替えて扱うことが可能です。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
105-82	中学校	国語	国語	3
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2 東書	国語002-92	新編 新しい国語 3		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

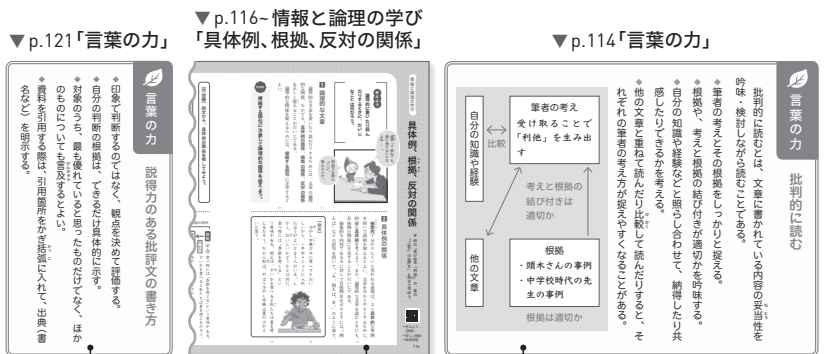
1 「言葉の力」を、生きる力に。

—国語の学習で、どんな力を、どうやって身につけるのか。その問いに答える教科書です。



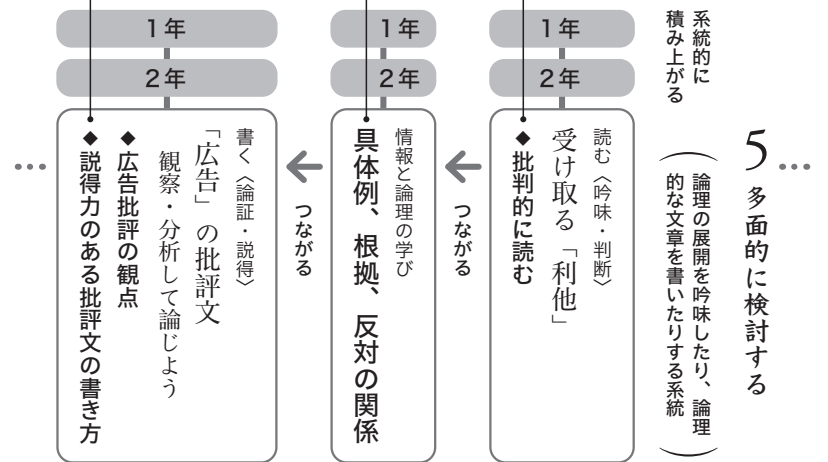
① 各教材で身につけたい力が、具体的かつ明確に分かります。

- 「話す・聞く」「書く」「読む」の各教材を通して身につけたい汎用的な言語能力のポイントを、「言葉の力」として明示しました。
- 3領域の学習を支える基礎力を取り立てて鍛える教材として、「情報と論理の学び」「文学の学び」「対話の学び」を設けました。



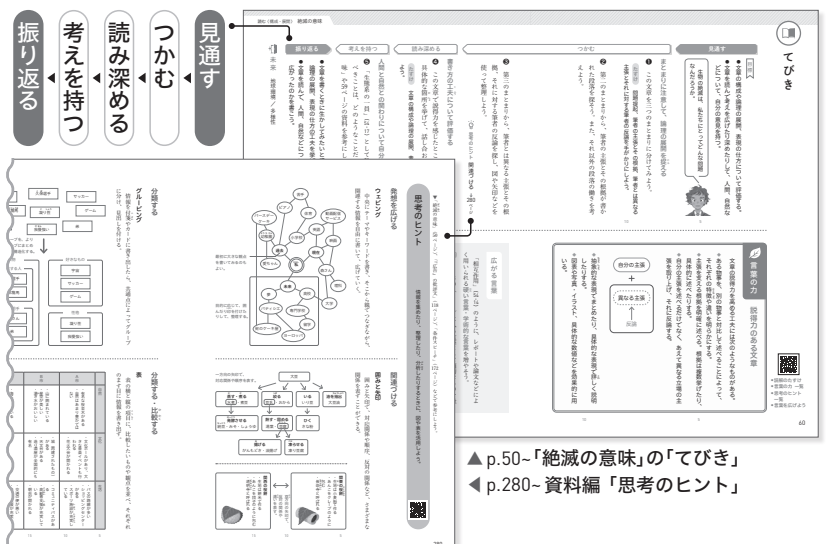
② 「言葉の力」は、3年間を通して有機的につながり、積み上がります。

- 「読む」から「話す・聞く」「書く」へ、「言葉の力」がつながるように教材を配列しました。また、同じ系統の力を3年間で段階的に積み上げることができます。
- 「情報と論理の学び」「文学の学び」「対話の学び」で鍛えた力は、前後の3領域の学習に生かすことができます。



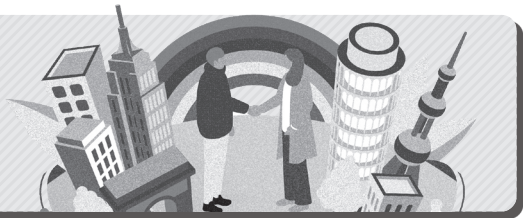
③ 学習の進め方を分かりやすくしました。

- 3領域とも、学習の見通しと振り返りの過程を重視しています。何に注目して学習し、振り返るのかを、生徒目線で示しました。
- 「読む」「古典」の「てびき」は、読解から考えの形成への流れを3段階に分けて示しました。
- 情報活用能力および論理的思考力の育成の一環として、適宜、思考を整理する方法(「思考のヒント」)を示しました。



2 国語の授業から広がる未来。

—言葉を駆使して、自分の、社会の、未来をひらく。
国語の授業のその先を見据えた教科書です。



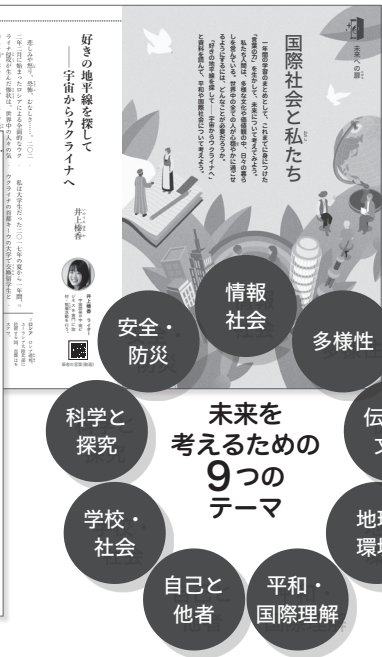
① まず、「言葉の力」を身につける。次に、「言葉の力」を使って、さまざまな課題について考える。
この教科書は、その両方の達成を目指します。

- この教科書では、「未来を考えるための9つのテーマ」を設定しています。各教材には関連するテーマを示しており、3年間を通して、自分や社会の課題について考えていきます。
- 各学年末に総まとめの教材「未来への扉」を設けました。1年は「多様性と共生社会」、2年は「地球環境と人間社会」、3年は「国際社会と私たち」について、文章や資料を読んで考えを深め、意見文またはスピーチで発表します。

▶▶ p.214- 未来への扉「国際社会と私たち」
これまで身につけた「言葉の力」を使って、
考えを深める教材。1年間向き合ってきた
「未来」テーマも振り返る。

「未来を考えるための9つのテーマ」を振り返ろう

教材	関連するテーマ
① 生活は	自己と他者
② 世界への入り口	多様性
③ 俳句の読み方、味わい方／俳句の歴史	伝統と文化
④ 俳句の創作と発表	伝統と文化
⑤ 俳句	伝統と文化
⑥ 漢字の由来と漢字の歴史	学校、社会／伝統と文化
⑦ 漢字の書体	地球環境／多様性
⑧ 「漢字」の発展	地球環境／多様性
⑨ 漢字の歴史「漢く」のなか	学校、社会／自己と他者
⑩ 漢字の発展と文化	自己と他者
⑪ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者／学校、社会
⑫ 漢字の発展「漢く」のなか	地球環境／学校、社会／多様性
⑬ 漢字の発展「漢く」のなか	伝統と文化
⑭ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
⑮ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
⑯ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
⑰ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
⑱ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
⑲ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
⑳ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
㉑ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
㉒ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
㉓ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
㉔ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
㉕ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
㉖ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
㉗ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
㉘ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
㉙ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
㉚ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
㉛ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
㉜ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
㉝ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
㉞ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
㉟ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
㊱ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
㊲ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
㊳ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
㊴ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
㊵ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
㊶ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
㊷ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
㊸ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
㊹ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者
㊺ 漢字の発展「漢く」のなか	自己と他者



各教材の「未来」テーマ

▲ p.50-「絶滅の意味」の「てびき」

3 一人一人の「学びたい」に寄り添う。

—分かるようになりたい、できるようになりたい、知りたい、もっと学びたい。
一人一人の「たい」にしっかり応える教科書です。



① 学習につまずいたときに、もっと深く学びたいときに。授業中にみんなで、あるいはそれぞれで。家庭学習での活用も。目的や場面に応じて使えるデジタルコンテンツがあります。

- 例えば古典が苦手な生徒には、まずは古文を読めるようになるための朗読動画を。カラオケの歌詞のように、古文の読んでいる箇所がハイライトで表示されます。また、美しい挿絵が理解を助けます。
- 例えば古典をもっと学びたい生徒には、関連資料を。より多くの情報に触れ、学びを深めることができます。

おくのほそ道

QRコード

- 解説(動画)
- 朗読(動画)
- 記念館

つまずいたときに……

月日は百代の過客にして、行き交ふ年もまた旅人なり。舟の上に生涯を浮かへ、馬の口からへて老いを迎ふる者は、日々旅にして、旅を極む。古人も、多く旅に死せるあり。

舟りか、片雲の風

もっと深く学びたいときに……

百人一首に親しもう

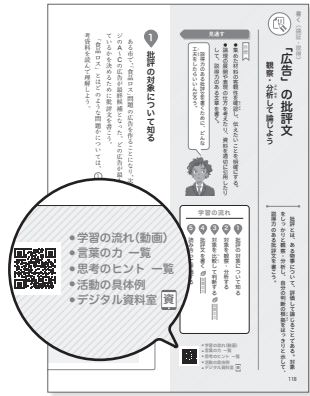
- 秋の田のかりほの庵の苫をあらみわが衣手は露にぬれつつ 天智天皇
- 春過ぎて夏来にけらし白鳥の衣ほすてふ天の香具山 持統天皇
- あしひきの山鳥の尾のしり尾のながながし夜をひとりかも寝む 柿本人麿
- 田子の浦にちも出て見れば白妙の富士の高嶺に雪は降りつつ 山部赤人
- 奥山にもみらぬ分け鳴く鹿の声聞く時ぞ秋はかなしき 猿丸大夫
- かきさきの渡せる橋に置く朝の白きを見れば雪ぞ更けにける 中納言藤原
- 天の原心りさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも 阿部仲麻呂

▲ p.138-「おくのほそ道」

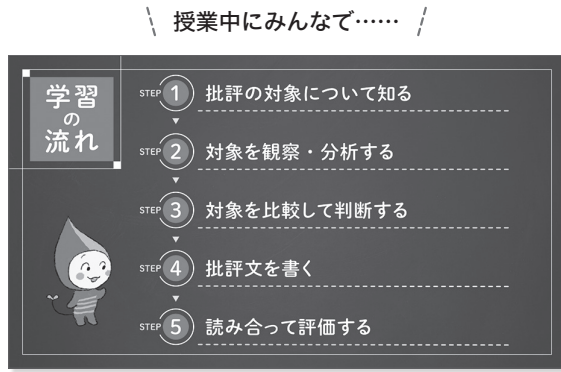
▲【デジタルコンテンツ】「おくのほそ道」の「朗読(動画)」

▲【デジタルコンテンツ】「百人一首に親しもう」(「万葉・古今・新古今」の関連資料)

- 例えば「話す・聞く」「書く」では、学習の流れが分かるアニメーションを。授業の導入にみんなで見て、これからどんな活動をするのかを確かめます。
- 例えば「話す・聞く」「書く」では、教科書よりもさらに多くの具体例や作品例を。生徒が必要に応じて参照できます。



▲ p.118-『広告』の批評文



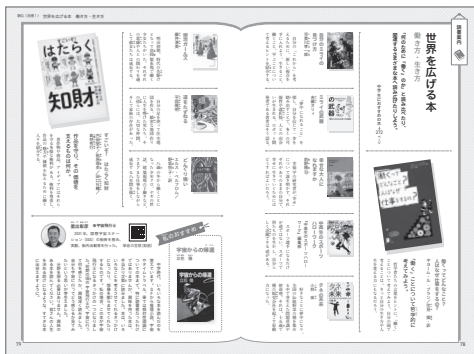
▲【デジタルコンテンツ】『広告』の批評文の「学習の流れ(動画)」



▲【デジタルコンテンツ】『広告』の批評文の「活動の具体例」

② 本は知識の泉。言葉は表現の種。生徒の今を、未来を支える、読書と語彙の学習を重視しました。

- 「世界を広げる本」「夏休みにおすすめの本」「未来を考える本」「中学生におすすめの本」など、422冊の本を紹介しています。
- 自分の思いや考えを表現するための語彙の学習も充実しています。



▲ p.78-「世界を広げる本 働き方・生き方」



▲ p.222-「未来を考える本」



▲【デジタルコンテンツ】「言葉を広げよう」
15のカテゴリーに分け、1870語の語彙を掲載。「読む」や「書く」の学習の中で参照したり、家庭学習で活用したりできる。

観点別の特徴	
教育基本法の遵守	<ul style="list-style-type: none"> • 教育基本法の目的と理念を実現するため、特に次の4点を育むことを重視して編修している。 ① 幅広い知識・教養と思考力 ② 豊かな人間性 ③ 伝統文化を受け継ぐ心 ④ 未来を切りひらく創造性と公共の精神
学習指導要領の遵守	<ul style="list-style-type: none"> • 中学校学習指導要領(国語)に示された教科の目標に則り、指導事項と言語活動例をもれなく扱っている。 • 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の多彩な言語活動を通して「思考力、判断力、表現力等」の育成に努めるとともに、「言葉」「情報の扱い方」「古典」「読書」など「知識及び技能」も重視している。
構成・配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> • 本編・資料編と、教科書に示した二次元コードから利用できるデジタルコンテンツからなり、学習指導要領の内容は本編で網羅している。デジタルコンテンツは、3年用に130用意している。 • 本編の内容は、生徒や先生の過度な負担とならないように精選している。資料編とデジタルコンテンツの中で活用することで、適宜学習の深化や拡充が図れる。 • 3学期制でも2学期制でも各領域等の指導がバランスよくなされるように、教材を配列している。 • 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各教材で身につける言語能力を「言葉の力」として明示している。「言葉の力」は、「読むこと」から「話すこと・聞くこと」「書くこと」につながるように、また、1年間で段階を追って積み上がるように、さらに3年間で系統的に積み上がるように配置している。 • 3領域を支える基礎力を鍛える「学びを支える言葉の力」(「情報と論理の学び」「文学の学び」「対話の学び」)を設けている。「学びを支える言葉の力」で学んだことが3領域の学習に生きるように、教材を配列している。
資質・能力の育成	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「言葉」や「情報の扱い方」については、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」で繰り返し取り上げるとともに、「日本語探検」「文法の窓・文法解説」「漢字道場」や「情報と論理の学び」で取り立てて学習できるようにしている。 • 「読むこと」の脚注語彙や「広がる言葉」を中心に、生徒の語彙を増やす手立てを講じている。デジタルコンテンツの「言葉を広げよう」には、15のカテゴリーに分けて1870語の語彙を掲載しており、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習の中で適宜参照できるようにしている。

資質・能力の育成	<p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」各教材の学習のポイントを「言葉の力」として明示し、着実な習得を図っている。「言葉の力」を多彩な言語活動の中で活用することを通して、思考力・判断力・表現力を育成できる。 「学びを支える言葉の力」（「情報と論理の学び」「文学の学び」「対話の学び」）で、情報の扱い方や論理的な考え方、文学作品の読み深め方、コミュニケーションの基礎力を鍛えることができる。
主体的・対話的で深い学びの実現（教材の構成・学習の進め方）	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭の「領域別教材一覧」で、生徒が既習事項を振り返ったり、今後の学習の見通しを持ったりすることができる。また、巻末の「言葉の力」一覧で、中学校3年間の学習を見通したり振り返ったりすることができる。 巻頭扉の「言葉の学習を始めよう」に、国語の学習の意義を示している。また、国語の学習を生活に生かす視点を各所に示している。国語の学習で言語能力を育み、それを生活に生かしていこうとする態度を養えるようにしている。 各教材では、言葉に着目し、言葉による見方・考え方を働かせられるように、活動指示や「てびき」を工夫している。 各教材の「見通す」で学習目標と問いかけを、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の「学習の流れ」や、「読むこと」の3段階の「てびき」（「つかむ」「読み深める」「考えを持つ」）で学習の進め方を、「振り返る」で学習目標に照らした振り返りの観点を示している。これらを手がかりに、生徒が主体的に学習に取り組むことができる。 主体的・対話的で深い学びに資する課題解決的な言語活動をそろえ、協働的な学びの場面を数多く設定している。 物語仕立ての教材やゲームを取り入れた教材、色鮮やかな写真や挿絵、デジタルコンテンツの映像やアニメーションなど、生徒の学習意欲を高める仕掛けを工夫している。
学力向上への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査やPISA調査で求められる学力の育成を意識して、文章や言語活動を選定している。また、文章と図表から読み取った情報を結び付けたり、根拠を挙げて自分の意見を記述したりする設問が数多くある。 「読むこと」の脚注語彙や「広がる言葉」、デジタルコンテンツを中心に、家庭でも学ぶことのできる内容を用意している。予習・復習に、また授業で学んだことを生かして取り組む学習に活用できる。 全ての学習の基盤にもなる読書を重視し、「読書案内」で422冊の多種多様な本を紹介している。
小・中・高の円滑な接続	<ul style="list-style-type: none"> 学習目標および「言葉の力」は、小学校の学習内容（学習指導要領）を受け、小中9年間の系統性を図って設定している。 小学校6年から中学校1年への学習の移行がスムーズに行えるように、1年の初めの文章教材は、小学校と同じ教科書体で、大きな活字で掲載している。また、1年前半の教材は、小学校高学年の復習となる内容にしている。 3年では、高校への橋渡しとなるように、社会性のある題材や言語活動を扱ったり、論説文・評論文を掲載したりしている。また、3年資料編で「古典の文法」（発展的な学習）も扱っている。
他教科の学習との関連	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム・マネジメントに資するよう、他教科の学習内容と関連があり、相互に学びを深められる題材を数多く取り上げている。他教科と特に関連の深い教材に教科関連マーク（)と教科名を示している。 レポートや新聞、手紙、スピーチ、プレゼンテーションなど、他教科の学習に生きる言語活動をそろえている。
伝統・文化の継承	<ul style="list-style-type: none"> 我が国で長く読み継がれてきた珠玉の古典作品を、美しい写真資料を添えて掲載するとともに、古典の鑑賞・解説の文章も豊富に掲載している。「てびき」は、伝統・文化がどのように受け継がれてきたのかを考えられる内容にしている。 近代文学や近代詩の名作も、数多く掲載している。詩歌は、学年3か所の詩教材に加え、扉に季節感のある詩歌を印象的な写真とともに掲載し、一年を通じて日本の豊かな風土に培われた言語文化に親しめるようにしている。 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」でも、日本の伝統・文化に関する文章や言語活動を扱っている。
現代的な諸課題の扱い	<ul style="list-style-type: none"> 教科書全体を通して「未来を考えるための9つのテーマ」を設定している。具体的には、①平和・国際理解、②地球環境、③伝統と文化、④多様性、⑤情報社会、⑥安全・防災、⑦科学と探究、⑧学校・社会、⑨自己と他者の9つで、現代的諸課題を取り上げて、各教材の学習の中で考えを深められるようにしている。 自己形成やキャリア教育に関する題材を積極的に扱っている。 メディアリテラシーおよび情報活用能力を育成する教材を全学年に設けている。
教育の情報化への取り組み（ICTの活用）	<ul style="list-style-type: none"> 1人1台端末の実現に伴い、教科書の各教材に示した2次元コードからアクセスして利用できる音声や映像などの資料（デジタルコンテンツ）を豊富に用意している。家庭での自学自習に活用できるコンテンツもある。 生徒が必要に応じて参照できる便利な資料を、デジタルコンテンツの「デジタル資料室」「言葉・漢字・古典の資料」として用意している。授業中に参照するだけでなく、家庭学習でも活用することができる。 教科書に示した2次元コードから、SDGsや情報活用の特設サイトにアクセスできる。
特別支援が必要な生徒への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育の専門家の校閲を受け、全ての生徒にとって読みやすく使いやすい教科書となるように配慮している。 「読むこと」の文章では、生徒が行を数えやすいように、各行の下に数字と点を付している。 特別支援教育に有効な機能が充実した「学習者用デジタル教科書」の発行を予定している。
ユニバーサルデザインへの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 色覚の多様性に配慮し、カラーユニバーサルデザインの観点から、配色およびデザインについて、全ページにわたって専門家による検証を行っている。色だけでなく模様や記号で識別できるように工夫している。 脚注欄などの小さめの文字や色文字の振り仮名にはゴシック体を用い、読みやすさに配慮している。 生徒が情報を捉えやすく学習に集中できるように配慮している。文字と図版などとの区別や、活動の区切りを明確にし、文字の大きさや書体、罫線や囲みの使い方、色遣いなどを工夫している。 本文書体に、小学校教科書で使用されている教科書体に筆遣いや字形を合わせた、特別な明朝体を使用している。
印刷・製本	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の身体的負担を軽減するため、学習の参考や深化・拡充のための資料はデジタルコンテンツとして用意するなど、教科書の内容を精選し、ページ数を削減している。また、十分な強度を保ちつつ軽量化した用紙を使用している。 環境への配慮から、再生紙および植物油インキを使用している。また、印刷業界団体が定めた環境配慮基準を満たした「グリーンプリンティング認定工場」で印刷・製造を行っている。 表紙には耐久性に優れた加工を施し、製本には特に堅牢な針金綴じを用いている。

2. 対照表

ページ	教材名	学習指導要領の内容				配当時数				配当学期
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等			知・技	思・判・表			
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと		話・聞	書	読	
巻頭	生命は				(1)ウ,(2)イ				1	一学期 33時間／書・予3時間
16	世界への入り口	(1)イ			(1)エ,(2)イ				2	
20／巻頭	俳句の読み方、味わい方／俳句五句／ 扉の俳句八句	(1)イ			(1)イ・エ,(2)イ				2	
25	俳句の創作と句会			(1)オ,(2)ア				3		
29	間違えやすい敬語	(1)エ				1				
32	間違えやすい言葉	(1)ア				1				
34	形	(1)イ			(1)イ・ウ,(2)イ				3	
42	提案や主張の聞き方	(1)ウ,(2)ア	(1)エ,(2)ア				2			
46	送り仮名	(1)ア				1				
48／224	表現に生きる文法	2年(1)オ				1				
50	絶滅の意味	(1)イ・ウ,(2)ア			(1)ア・ウ・エ, (2)ア・ウ				4	
62	情報の信頼性の確かめ方	(2)イ				1				
64	「環境」の新聞	(1)ウ,(2)イ		(1)ア・イ・ウ, (2)イ			6			
69	読み方の難しい漢字	(1)ア				1				
70	連語・慣用句	(1)イ				1				
72／80	何のために「働く」のか／ 読書会の方法	(3)オ			(1)エ,(2)ア	(3)			3	
84	百科事典少女	(1)イ			(1)イ・ウ,(2)イ				4	
100	対比と象徴				(1)ウ				1	
102	和語・漢語・外来語	(1)イ				1				
104	他教科で学ぶ漢字(1)	(1)ア				1				
106	受け取る「利他」	(1)イ,(2)ア			(1)イ・エ,(2)ア				4	
116	具体例、根拠、反対の関係	(1)ウ,(2)ア				1				
118	「広告」の批評文	(1)イ・ウ,(2)ア		(1)ア・イ・ウ, (2)ア			5			
124	言葉の移り変わり	(3)ウ				1				
126	初恋				(1)ア,(2)イ				1	
130	万葉・古今・新古今	(3)ア			(1)ウ	(3)			3	
138	おくのほそ道	(3)ア			(1)ウ	(3)			3	
148	論語	(3)イ		(1)ウ	(1)エ	(3)	1		2	
154	他教科で学ぶ漢字(2)	(1)ア				1				
156	故郷	(1)イ・ウ			(1)ア・イ・エ, (2)イ				5	
172	条件スピーチ	(1)エ	(1)イ・ウ,(2)ア				3			
176	四字熟語	(1)ア・イ				1				
178／186	本との付き合い方／私のベストブック	(3)オ			(1)エ,(2)ウ	(2)			2	
188	いつものように新聞が届いた —メディアと東日本大震災	(1)イ			(1)エ,(2)ア・ウ				3	
198	時を超える手紙			(1)ア・エ,(2)イ			5			
202	合意形成の仕方		(1)オ				1			
204	合意形成を目指す話し合い		(1)ア・オ,(2)イ				4			
209／226	文法のまとめ	1年(1)エ, 2年(1)オ				1				
210	レモン哀歌／生ましめんかな				(1)ウ・エ,(2)イ				3	
214	国際社会と私たち	(2)ア	(1)イ,(2)ア	(1)ウ,(2)ア	(1)エ,(2)ア・ウ		1	1	2	
計						14	11	21	48	94
						書写および予備				11
						総計				105

【備考】

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の内容を扱う教材内で、併せて「知識及び技能」の「我が国の言語文化に関する事項」の「ア・イ・オ」を取り立てて扱う場合、「配当時数」の「知・技」欄にも括弧付きで時数を示した。
- ・「配当学期」欄に「書・予」とともに示した数字は、書写および予備の時数である。
- ・「知識及び技能」の「(1)ア」のうち、学年別漢字配当表の漢字については、読み慣れることを目的として全ての教材で扱っている。また、文や文章の中で使うことを目的として「書くこと」の教材で扱っている。その他の常用漢字については、377字を第3学年で新出漢字として提出している。

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
105-82	中 学 校	国 語	国 語	3
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2 東 書	国 語 002-92	新 編 新 し い 国 語 3		

ページ	記 述	類 型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項	ページ数
276～277 ページ	古典の文法	2	第2章 第1節 第3 3 (5) 「古典に関する教材については、古典の原文に加え、古典の現代語訳、古典について解説した文章などを取り上げること。」	2
合計				2

(備考)

4 「類型」欄には、申請図書における発展的な学習内容の記述について、以下の分類により該当する記号を記入する。

- ・学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容……1
- ・学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容……2